



新年の
ごあいさつ



南陽市議会議長
遠藤 栄吉

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健康やかな初春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年3月の市議会議員選挙では4人の新人議員を含む17人が当選し、新たな出発となりました。市民の皆様にはご理解と、ご協力を賜り、各議員が良識と信念に基づき議会活動に精励し、地域振興・市政発展に尽力できましたことに心から感謝申し上げます。

さらに開かれた議会を目指し、本会議イン

ターネット中継の導入や議会だよりの刷新等により、市民の皆様への期待に応えられるよう改革に努めてまいり所存です。
結びになりますが、南陽市と市民皆様にとりまして輝かしい年になりますようご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

12月定例会のあらまし	2
補正予算の目玉	3
予算特別委員会質疑	4
一般質問	6
常任委員会報告	8
行政視察報告	11
置賜広域議会等報告	12
採決の結果・表紙の説明	13
こうなっしてほしい南陽市	14

条例議案、補正予算議案など 17件の議案を審議

12月
定例会



傍聴席から議会をのぞむ

市当局が議案13件を提案

初日に市当局が承認1件、諮問1件、同意1件、条例その他5件、補正予算案5件、合計13議案を提案。
承認・諮問・同意案は承認。条例その他案、補正予算案は各委員会に付託しました。

一般質問に5人白熱した議論

今回の一般質問は、

船山利美、高橋一郎、吉田美枝、白岩孝夫、佐藤明議員の5名でした。

各議員は持ち時間の60分をぎりぎりまで使い、少子化対策、経済・雇用対策、災害対策等について白熱した議論を交わし、当局の考えや施策についてたどりました。
詳しくはインターネット録画中継で見ることができます。

各常任委員会を開催、条例等を審査

12月定例会は12月7日から21日までの15日間の会期で開催されました。議案17件を審議した結果、いずれも原案どおり承認・同意・可決しました。なお、詳しい議案内容は13ページをご覧ください。また、請願2件は採択しました。

13日に総務、14日に文教厚生、17日に産業建設の各常任委員会を開催し、付託された議案を審議しました。

その審議内容と結果については、8〜10ページに掲載していますのでご覧ください。

予算特別委員会総額1億9千万円余りを補正

19日に予算特別委員会を開催し、補正予算5議案を審議しました。
一般会計補正予算の主なものは財政調整基金積立1億円、荻小と小滝小統合にともなうマイクロバスの購入費

各委員長報告後表決・意見書提出議案を審査

600万円、保育園児増加による委託料225万円等々で、総額1億9230万円です。関連記事は3ページに記載しています。

条例その他議案5件、補正予算案5件を全会一致で可決しました。また、総務常任委員会、文教厚生常任委員会に付託された請願2件について採択し、意見書を関係省庁等に送付することに決定しました。

議会最終日には、各委員長の審査結果報告を行い、表決の結果、



平成25年度より統合される荻小（上）・小滝小（下）



通学・学習に活用されるバス

平成25年4月、小滝小学校が休校し、児童は荻小学校へ通学します。遠距離通学となる

スクールバスを購入

24年度補正予算
1億9,230万円
ここに注目★

600万円

児童の登下校の安全確保のため、へき地児童生徒援助費等補助金を活用し、新たに29人乗りマイクロバスを購入します。納入は3月末を予定しています。吉野地区の保護者の不安や負担を軽減し、また児童の学習に有効活用されるものと期待しています。

4種混合ワクチンを導入

844万円

ポリオ予防接種が3種混合ワクチンに加えられ、4種混合ワクチンとなりました。

8月まで生ポリオワクチンを口から飲む方法で集団接種していましたが、9月から不活化ポリオワクチンを注射する方法に代わり、11月からは4種混合ワクチンとして医療機関での個別接種となりました。

詳細は市報の8月1日号と9月1日号に記載されています。



お年寄り世帯等の雪下ろし

雪下ろし費用の助成を引上げ

45万円

高齢者等への雪下ろし費用の助成を1万2千円に引き上げました(従来9千円)。助成を

受けられるのは、誰からも金銭的・労働的援助が受けられない世帯で、次のいずれかに当たる世帯です。
◎年収130万円以下の世帯で、病弱な65歳以上の高齢者のみの世帯か、障がい者のみの世帯。
◎母子世帯で所得税非課税の世帯。

その他の主な事業

☆財政調整基金へ積立	1億円	☆農作物の雪害防止除雪	170万円
☆市所有建物の解体	1,500万円	☆織機川取水ゲート改築	350万円
☆マイクロバス買い換え	677万円	☆市道延長等の維持管理費	200万円
☆赤湯駅駐車場の交通誘導	117万円	☆消防無線のデジタル化負担金	29万円
☆保育園児増加による委託料	2,225万円	☆学校図書検索システム構築	89万円
☆生活保護の医療扶助増加分	860万円	☆県中学総体で酒田へ派遣	137万円
☆予防接種の履歴管理	41万円	☆幼稚園就園奨励費補助	335万円

質疑要旨

予算特別委員長
川合 猛



生活保護費は 今後どうなるのか

佐藤 明議員

◎政権が代わり、生活保護費の引き下げの話があるが市の考えは。

〈福祉課長〉厚生労働省からの通知はないので、増減の推計はしていない。

◎給付水準の10%引き下げの話があるが、就学援助の影響はどうか。

〈学校教育課長〉24年度は小中1名ずつであり、あまり影響はないと考えている。

◎経済の悪循環で生活保護者が増えてくる。今から事務体制も含めて対応すべきと思うが。

〈福祉課長〉ケースワーカー4名体制で行っており大丈夫と考える。生活保護は国の受託事務なので適切に

運用したい。

◎なかには生活保護者よりも大変な方もおられるのでしっかりと対応が必要だと思うが。

〈福祉課長〉民生委員を通じて生活困窮者の状況を把握し、窓口での相談を強化していく。

菊まつりイベントの 減額補正はなぜか

板垣致江子議員

◎菊まつりイベント事業費の約465万円の減額補正はなぜか。

〈商工観光ブランド課長〉不要なのではなく、震

災等緊急雇用対応は制度上、年度をまたぐ事業で減額分は25年度の菊まつりに使用する。

交流プラザ蔵楽の 設備の充実を

◎交流プラザ蔵楽の施設改修の70万円補正の内容は何か。

〈商工観光ブランド課長〉三号館の排煙窓破損修理と障がい者用トイレの修繕。

◎後ろの搬出入口は階段でなくスロープに。街灯もなく暗くて危ない。和室も寒くて凍えてしまう。改善を。

〈商工観光ブランド課長〉状況を認識していなかったこともある。予算を伴うものは年次計画で改善していきたい。

◎駐車場、通路、階段などの除雪はどのように行うのか。

〈商工観光ブランド課長〉駐車場は今年度から市直営で行う。通路は歩ける程度の除雪を地区にお願いしている。



交流プラザ蔵楽



菊まつり菊人形展

補正予算の

市税のコンビニ収納の 効果は

山口 正雄 議員

◎コンビニ収納業務委託契約の内容はどうなっているのか。

〈税務課長〉1件当たりの契約になっている。

当初予想より利用者が多く、今回30万2千円の増額補正をお願いしたい。

高橋 一郎 議員

観光誘客に 情報のキャッチも必要

◎債務負担（年度をまたぐ）行為の補正の中の観光誘客推進事業委託はどのようなことを考えているか。

〈商工観光ブランド課長〉

観光イベント等の充実方策、PR活動に使用したい。

◎情報を発信するだけでなく情報をキャッチ

していく。たとえば、

米沢市営人工芝フィールドの宿泊客を誘客するとか、他市町の行事をリサーチすることも必要。

〈商工観光ブランド課長〉意見を参考にして内部で検討する。

赤湯温泉源泉掘削の 日程と財源は

◎源泉掘削地調査業務委託を経て場所を決めた後、試掘スケジュールと財源は。

〈企画財政課長〉調査委託（25年3月まで）により現在の源泉に影響なく湯量、温度とも

確保できる適地

を探し、温泉審議会を経て来年度着工したい。

財源は赤湯財産区の積立金を取り崩して対応する。

赤湯小の給食業務の 委託と食材は



赤湯小学校調理の様子

◎今までと同じように献立は市の栄養士が行い、放射能汚染の心配のない地元農産物を食材として使用するか。

〈管理課長〉委託内容は調理と配送業務でプロポーザル入札として5年の契約としたい。地元産の食材は放射能汚染の心配がないので、できるかぎり使う方針である。



赤湯温泉森の山源泉と足湯

答 弁 要 旨

南陽市の人口減少対策を どうする！ 提言とその関連 友好都市関係は

舩山 利美 議員



- ◎人口減少対策として、南陽市で子育てをしたい環境づくりについて、就学前児童の保育料・給食費が現行は第4子以降免除だが、第2子以降は定額助成、第3子以降は全額免除とはならないだろうか。
- 〈市長〉 保育所等の同時入所の場合は2人目が半額、3人目は無料の措置がとられている。今後支援策の拡大に向けて協議したい。
- ◎「子育て支援医療給付事業」について、県内市町村でも進んでいる義務教育までの医療費無料化は定住率向上には必要と思うが。
- 〈市長〉 無料化を実施した場合、小学6年生までを対象にすると、3420万円ほど、中学3年生までだと、4780万円ほど市の財政負担となるので、今後検討したい。
- ◎居住環境について、南陽市に定住するためには住宅が必要となるが、行政として定住率向上を図る方策はどのように考えているか。
- 〈市長〉 居住環境の整備は、「子育て応援定住交付金事業」などを実施、また、新たな住宅団地に結び付く道路整備を進めている。
- ◎社会教育の一環として「特色ある地域づくり事業」の進捗・成果・今後の展望はどうか。
- 〈市長〉 現在進行中で、実施している地区は本市のモデル地区になるよう期待している。
- ◎中国南陽市との将来に向けた友好都市関係の在り方については。
- 〈市長〉 日中関係は深刻だが、情勢を見極め中国国内でのマーケット開拓に尽力する。

新文化会館の建設には 長井線をまたぐ道路整備が先決

高橋 一郎 議員



- ◎新文化会館を市役所南に建設するのであれば、フラワー長井線を東西に跨ぎ、県道赤湯宮内線と国道113号を結びことが先決ではないか。
- 〈市長〉 新文化会館の交通アクセスは国道沿いであること、フラワー長井線の駅が隣接していることを考えれば、道路整備が施設開館までの絶対条件とはとらえていない。
- しかし、花公園エリアとの一体性が高まるなど都市計画、中長期的には検討が必要。財源の手当やフラワー長井線との交差点等論じていきたい。
- ◎ゲリラ豪雨に備えて吉野川河川改修の推進や気象情報の伝達としてのサイレン設置を。
- 〈市長〉 河川改修に向けて期成同盟会と協力して県などに要望していく。サイレンは警鐘台を順次撤去して設置している。
- ◎雪下ろしに限らず、生活弱者が困っているときは地縁・血縁の中で助け合い支えあっていくべき。身寄りもなく収入が少ない場合は、民生委員を通して認定した世帯に市は雪下ろし費を支給している。その助成の範囲で雪下ろしを行うボランティアが必要。する側も受ける側も持続可能なシステムを。
- 〈市長〉 ボランティアによる雪下ろしが各地区に波及し、体制が定着することは歓迎すべきこと。ただ、人員の確保や安全対策、住宅破損した場合の補償問題など検討課題もある。整備に時間がかかると思うが支援を検討する。

教育環境・子育て支援の 更なる充実を求めて

吉田 美枝 議員



◎要・準要保護児童生徒の就学援助の運用状況はどうなっているか。

〈教育長〉福島県からの避難児童生徒も対象としているが、児童生徒数が減っている中、

援助を受ける児童生徒数は近年増加傾向にある。平成22年度から新たに加わったクラブ活動費、PTA会費、生徒会費も準要保護児童

生徒における補助対象項目にしている。これは県内13市の中で本市を含め3市、置賜管内では川西町と本市だけが実施している。

◎子どもが自分だけの力で作る「弁当の日」の取り組みは、全国に賛同の輪が大きく広がっている。本市での取り組みについての考えは。

〈教育長〉「弁当の日」の趣旨を十分に勘案し、

一人ひとりが自分で考えることを考え、それを実践するなど、他とは違った南陽市ならではの教育実践の機会を検討していく。

◎「弁当の日」の取り組みを実際にやるかどうかは別として、創始者である竹下和男氏の講演を子どもたちや保護者に聞かせて欲しい。

◎子育て支援の更なる充実を求めて、産後ヘルパー派遣事業の取り組みについての考えは。

〈市長〉家事や児童援助として、ヘルパー派遣の要望が強いとの状況にはないが、核家族化の進展や里帰り出産をしない方も含めて、今後、需要の高まりも想定されることから、ヘルパー派遣事業者との協議や受け皿づくりに向けて検討したい。

不妊に悩む夫婦への助成と 早婚化を促す教育を

白岩 孝夫 議員



◎南陽市の少子化の現状と対策は。

〈市長〉平成23年度の出生数は256人、5年前は284人。「子育て支援都市」宣言をして独自の施策、支援を行っているが、特効薬が見つからないことも事実で、大変苦慮している。子育て支援の主体は国が背負うべきで、リーダーシップを発揮してもらいたい。

◎少子化の要因の一つとして晩婚化があり、その結果、子どもを望んでもなかなか授かることができない不妊症が増えている。しかし不妊治療には高額な医療費が必要。県で助成しているが、本市でも助成予算を来年度から盛り込む考えはないか。

〈市長〉必要な状況になれば、それに応じて措置していきたい。

◎県の不妊治療助成件数は8年前の5倍強。必要性は明らか。早急に手を付けてほしい。

〈市長〉結婚推進による晩婚対策、経済対策、不妊の方に対する医療的な支援など、バランスのとれた対応をしっかりとやっていきたい。

◎不妊治療で出産する確率は、20代で19%だが40歳では7%まで下がる。早めの治療や相談を促す広報を。

〈保健課長〉市報に掲載すると共に市ホームページからも山大病院等へのリンクを設ける。

◎不妊に悩む若者が増えないよう、卵子の老化や、結婚適齢期に関して、南陽市の中学生にしっかりと教育を。

〈教育長〉学習内容を組み替え、子ども達へのそういう保健的な指導を前向きに検討する。

一般質問

市民の要望を 来年度予算に反映すべきでは！

佐藤

明議員



◎各地区で行われている「いきいきトーク」「お茶の間市長室」で提案されている意見、要望等を来年度予算に反映すべきでは。

〈市長〉今年度の「いきいきトーク」には約450名、直接地区に出向き膝を交えて対話する「お茶の間市長室」は6団体より約80名の方に参加していただきました。実現可能なものについては、早速調査を実施しながら取り組んでいく。

◎意見・要望等は数多く提出されていると思うが、すぐできるもの、予算をとまなうもの、県や国に要望しなければならぬものなど優先順位（年次計画）を立てながら実施すべきでは。

〈市長〉実現可能なものは迅速に対応してい

る。市民生活に直結した継続事業については、年次計画に組み入れ優先度の高いものから実施できるように努める。

◎長引く不況が続く中、地元工商業者の営業とくらしをどう守っていくのか。

〈市長〉地方経済は一層厳しい状況と認識している。そのために公共事業や工商業者への制度資金の利用拡充、緊急雇用事業の実施など、景気の下支えを図っていく。

◎福祉、医療、子育て支援と教育、農業、観光等の重点施策はどのように考えているのか。

〈市長〉市内景況や生活基盤の下支えを行うべく英知を結集し産業振興に取り組む。市民の命と暮らしを守る保健、福祉、人材育成等々に努力していきたい。

審査報告

- 「政務調査費」を「政務活動費」に改める
- 地方財政に関する意見書を提出

総務 常任委員会

◆南陽市議会政務調査費の交付に関する条例の一部改正

地方自治法の改正に伴い、住民自治の更なる充実を図るための所要の改正。

①「政務調査費」の名称を「政務活動費」に改める。

②交付の目的を「議員の調査研究その他活動に資する」に改める。

③政務活動に充てることのできる経費の範囲を条例で定める。

◆南陽市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正

人事院規則の改正に伴い、休憩時間を廃止し、1日の勤務時間を15分短縮するもの。これにより、1日の勤務時間は7時間45分となるが、始業8時30分から終業17時15分は今ままで変わらない。

◆地方財政の充実・強化を求める請願

9月から継続審査となっているもの。急速な高齢社会が到来し、社会保障の機能強化と持続可能性の確保が1層重要となり、安定した財源が求められる。地域の雇用確保、社会保障の充実など、地方自治体の果たす役割の重要性を鑑み、来年度の地方財政予算全体の安定確保にむけ、政府関係機関に意見書の提出を決定する。

◆地方財政の充実・強化を求める意見書

●被災自治体復興費は国の責任で確保し、地方負担は通常の予算と別に計上すること。

●今後増大する財政需要を的確に取り入れ、来年度の地方財政計画を策定すること 等々。

(委員長 吉田 美枝)

赤湯・沖郷学童保育施設 社会福祉法人双葉会の指定管理継続



行き届いた保育が期待される学童保育

◆教育環境の改善を求める請願を採択

少人数学級の推進と、義務教育費の国庫負担増額を国に求める意見書の提出について審査した。

山形県は「さんさんプラン」を実施して生徒

◆双葉会に委託を継続
赤湯・沖郷学童保育施設を平成28年3月まで引き続き双葉会に運営委託することを審査した。

委員から「市の方針との違いで指導をしたことはなかったか」等の質問があり「重大な事故等はなく、きめ細かな運営で、児童・保護者から苦情等はない」との回答を受け、全会一致で可決した。

指導の向上に取り組んでいる。また、義務教育費の国庫負担は現在の3分の1で、以前の2分の1になれば、教員配置や財政面での効果が期待される。

委員から「少人数学級の推進は様々な教育問題を防げる」「義務教育費の国庫負担は教育水準確保に重要」との意見が出され、全会一致で採択した。

(委員長 高橋 弘)

管内視察レポート

入園希望が多い保育、学童施設

・今春の統合を控える荻小、小滝小

10月12日、第2回の管内視察を行った。

◆保育園と学童施設に多数の希望者

赤湯ふたば保育園は、平成19年に開園した新しい施設とあつて入園の希望が多く、現在150名の園児を保育している。赤湯学童保育

施設は78名を受け入れている。

◆児童数が減少している荻小・小滝小

荻小学校は児童数18名。「よく学び、しなやかな心と体で、のびようみんなので荻小っ子」がスローガン。少子化が進み来年度より小滝

小学校と統合となる準備が進む。

小滝小学校は児童数12名ながら「こころ豊かな子ども、たくましい子ども、きたえる子ども」をスローガンに掲げる。10月19日には、62名の先生方を迎え公開研究発表会が行われた。

◆広さも充分 吉野森

林交流センター

地元産木材を使用したぬくもりのある施設で、平成22年12月に竣工。北側には広さ充分のグラウンドもある。

(委員長 高橋 弘)



来年度から休校となる小滝小学校

農業委員の定数削減と部会廃止

産業建設 常任委員会

◎南陽市農業委員会の委員の数を定める条例等の一部改正

農地面積、農業者数及び申請事業の減少、現在の農業情勢や近隣市町の動向等を勘案し、委員の定数を削減するもの。赤湯・宮内・和郷の各選挙区とも定数を7名から6名に減らし、公選委員を21名から18名とする。また、議会推薦委員の定数を2名から1名にするもの。そのため、現在の「農地部会」「振興部会」が、農業委員会等に関する法律で、公選委員が21名以下となり条件を満たさなくなるため、部会制を廃止する条例改正の説明を受け、審査の結果、全員異議なく原案のとおり可決した。

(委員長 白鳥 雅巳)

管内視察レポート

● 東北中央道の工法選定進む ● 水害対策で不安解消

10月18日、4か所の管内視察を行った。

◆東北中央自動車道白竜湖道路工事

南陽高島インターから山形上山インター間の約24kmが施工区間で

ある。白竜湖工事は特異な軟弱地盤深層泥炭層のため、真空圧密工法が採用され、同工法の中でも3通りを比較試験し、軟弱地盤対策として盛土計画を進めているとの説明を受けた。

ある。白竜湖工事は特異な軟弱地盤深層泥炭層のため、真空圧密工法が採用され、同工法の中でも3通りを比較試験し、軟弱地盤対策として盛土計画を進

ているとの説明を受けた。

◆吉野川雨水幹線開渠工事

大雨やゲリラ豪雨など集中的に雨水が流れ込むため、長岡・狙柳周辺地域が水浸しとなることから、16年度から工事に着

手している。市道稻荷森古墳線から県道南陽川西線まで、ボックスカルバートとU字溝で接続する約582mを今年度施工とのこと。この整備事業が早期に完成し、浸水被害の不安から解消されることを望む。

事業対象地区は、国道113号沿い最上川右岸水田地帯の畑作振興地域。降雨で川の水位が上昇し湛水被害が多発することから、排水ポンプや導水路整備

◆県宮梨郷地区湛水防除事業

事業対象地区は、国道113号沿い最上川右岸水田地帯の畑作振興地域。降雨で川の水位が上昇し湛水被害が多発することから、排水ポンプや導水路整備

をすする事業である。事業経過や設備の維持管理及び緊急操作などの説明を受け、施設を整備することで湛水被害が防げることを改めて感じた。

10月20日の開園式に向け、人形に菊の花の着付けなど、急ピッチで作業が進められていた。

(委員長 白鳥 雅巳)



東北中央自動車道白竜湖道路工事の視察



梨郷地区湛水防除事業の第一排水機場視察

*ボックスカルバート…地中に埋設される箱型の構造物で、道路、水路、通信線等の収容など各種の用途に使用される。

議会改革をめざして

11月18日から20日まで、兵庫県加東市議会、京都府木津川市議会を行政視察した。

加東市は、兵庫県南部よりに位置し、平成18年3月に社町、滝野町、東城町が合併して加東市になり、人口が4万2000名。今回の視察目的でもある開かれた議会をめざし、議員それぞれが特別委員となり、目標を掲げ、1年間で基本条例を作りあげたとのこと。その結果として、全国議会改革度ランキングで810都市中41位になったが、まだまだ検討する課題も残っているとの説明であった。



説明を受ける議会運営委員

また、木津川市は、人口7万2000名。大阪市、京都市、奈良市にも車で30分圏内にあり、3市のベッドタウンとして発展した。

平成19年3月に木津町、加茂町、山城町が合併し、年々400名の人口増加があり、今後も増加が見込めるなど、うらやましい行政運営を行っているまちであった。木津川市においても同じ課題で視察したが、順位は33位とすばらしい市議会であった。

今後、本市議会も開かれた議会をめざし、市民に胸を張れるよう改革を進めなければならないと思ってきた。

(委員長 高橋 篤)

議会と市民をつなぐ「花の風」を学ぶ

11月5・6日岩手県花巻市議会を行政視察した。

視察の目的は、議会報発行および編集等を調査研究し、開かれた議会を目標とし議会報広報活動の向上を図るため。

花巻市そのものは東日本大震災の大きな被害を免れたが、近くの沿岸部の石巻市・大船渡市・陸前高田市等へ、今もって職員を向させているとのこと。

花巻市の編集委員は8名で「花の風」と言うネーミングを付けて、年4回、各3万5000部余り発行している。「はなのかぜ」という名称には議会と市民とをつなぐ役割を果たしているという強い思いが込められていた。



花巻市編集委員より説明をうける

また編集のポイントとして①見出しは、記事の内容がわかるように具体的に作る。②市民の関心が高いと思われる内容にする。この2点は私たちも取組んでいかななくてはならない。

また編集の合理化とスピード化のため編集ソフトを使っていた。私たちの編集委員会にはOA機器はいまだ無く、来年度に向け予算要求をしている。

(委員長 片平 志朗)

議会報告

置賜広域行政 事務組合議会

11月28日定例会が開催され、6議案が提案され、すべて承認可決されました。そのうち主なものを報告します。

◎平成23年度一般会計 決算について

歳入決算総額は51億8176万円・歳出総額は49億8386万円・実質収支額は1億9786万円となりました。

◎火災予防条例の一部 改正について

電気自動車等の急速充電設備が省令の対象火気設備に追加されたことにより、組合の火災予防条例および施行規則の一部が改正されました。

行政視察報告

10月3・4日、宮城県

石巻ブロック仮設焼却施設を視察してきました。視察の目的は東日本大震災の支援のため、災害廃棄物の処理状況と必要性について検討するためです。

宮城県では「災害廃棄物処理実行計画」を策定し、県内を4ブロックに分けて処理を行っています。広大な敷地に巨大な処理プラントが設置されていました。一日の処理は320tになります。

県内の災害廃棄物は1252万tと推計され、それ以外に津波堆積物237万tあります。復興の要となる瓦礫の処理は平成26年3月まで続くということでした。

(置広議員 片平 志朗)



大きいものは重機により破碎分別する



手作業で分別作業



石巻ブロック仮設焼却施設を視察する置広議員

議会報告

置賜広域病院 組合議会

10月定例会は10月30日、南陽市議場で開かれました。

◎平成23年度置賜広域 病院事業会計決算につ いて

患者一人当たりの診療収入の増加などで医療収益全体では1.4%の増収となり、医業収支比率では90.6%で前年度より0.9ポイント改善がみられました。

◎平成24年度置賜広域 病院事業会計補正予算 について

勤務環境改善支援事業の実施と平成23年度の決算にともなう構成団体負担金精算のため予算の措置を行うものです。

置賜地域の基幹病院としてのあり方等の検討および推進に資する目的で11月1・2日と行政視察を行いました。神奈川県立足柄上病院は地域特性に対応した医療を提供し、特に地域の医師会との連携を強化しております。地域完結型の医療を目指して、さまざまな指導体制が整っており、研修医には大変評判の良い病院でありました。東京日本橋にある「くすり・ミュージアム」は置賜広域病院組合でも90品目以上使用している薬品等について見聞を広めると共に体験型展示コーナーを通じ、シアター等で薬に関するさまざまな知識を学ぶことができ、有意義な研修視察でありました。

行政視察報告

りました。
(置病議員 殿岡 和郎)



院内には託児所が設置されていた



病院の説明を受ける

提出議案と採決結果

今回は全議案とも全会一致で承認・同意・可決されましたので議員の賛否表は省略します

議案番号	議案名等	採決結果
承第4号	平成24年度南陽市一般会計補正予算(第3号)についての専決処分の承認を求めることについて(衆議院議員総選挙経費の補正)	承認(全会一致)
諮問第2号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて(任期満了にともなうもの)(再任・森谷和子氏 新任・廣居安子氏)	同意(全会一致)
同意第9号	南陽市赤湯財産区管理委員の選任について(任期満了にともなうもの)(再任・丸森英一氏 再任・曾根原力氏)	同意(全会一致)
議第64号	平成24年度南陽市一般会計補正予算(第4号) (おもな補正予算内容は3ページに掲載)	可決(全会一致)
議第65号	平成24年度南陽市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	可決(全会一致)
議第66号	平成24年度南陽市財産区特別会計補正予算(第3号)	可決(全会一致)
議第67号	平成24年度南陽市介護保険特別会計補正予算(第3号)	可決(全会一致)
議第68号	平成24年度南陽市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	可決(全会一致)
議第69号	南陽市農業委員会の委員の選挙区を設け、および各選挙区において選挙すべき委員の数を定める条例等の一部を改正する等の条例の設定について(公選委員21人から18人 議会推薦定数2人から1人)	可決(全会一致)
議第70号	南陽市議会政務調査費の交付に関する条例の一部を改正する条例の制定について (政務調査費の名称を政務活動費に、交付目的を議員の調査研究その他活動に資するに改め)	可決(全会一致)
議第71号	南陽市職員の勤務時間、休憩等に関する条例の一部を改正する条例の制定について(休息時間の廃止・勤務時間8時間から7時45分に改め)	可決(全会一致)
議第72号	南陽市立赤湯学童保育施設の指定管理者の指定について(指定管理者となる団体・社会福祉法人双葉会)	可決(全会一致)
議第73号	南陽市総合保健福祉施設の指定管理者の指定について(指定管理者となる団体・社会福祉法人双葉会)	可決(全会一致)
発議第5号	南陽市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について(議員は少なくとも一つの常任委員となる等)	可決(全会一致)
発議第6号	南陽市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について(地方自治法の一部改正のため)	可決(全会一致)
発議第7号	地方財政の充実・強化を求める意見書の提出について(地方財政予算全体の安定確保をはかる)	可決(全会一致)
発議第8号	少人数学級の推進及び義務教育費国庫負担制度の改善を求める意見書の提出について(全国的に35人以下学級を早期に全学年に拡大すること)	可決(全会一致)
請願第3号	地方財政の充実・強化を求める請願について(地方財政予算の安定確保を図るため)	採択(全会一致)
請願第5号	少人数学級の推進及び義務教育費国庫負担制度の改善について(国の責任で少人数学級を推進・義務教育国庫負担金を増額すること)	採択(全会一致)

毎年お正月には、門松を目印にして「年神様」が舞い降りて来ると昔から言われていました。お正月の風物詩でもある門松も、近年ではすっかり成りを潜めております。金山地区では、古き良き伝統を復活させようと5年前から「門松づくり講習会」を重ねてきましたが、このほど「かねやま門松保存会」を設立し、末永く後世に伝えようと取組まれております。

**良き生活文化の
傳承を！**



**表紙の
写真**

安全・安心な環境づくりを

南陽市砂塚 島崎 愛

南陽市の農家に嫁いで5年目になり、4歳の長女と3月には新しい家族が増えます。子どもを持つ親として、安全・安心な農作物が食べられるよう、無農薬作物がたくさん出回る有機農業の出来る環境づくりを充実してもらいたいと思います。無農薬作物といえど、誰もが耳を傾けるし、南陽市のこだわり



高島町上和田から平成20年に嫁いできました。長女のそらちゃんと3月には二人目が誕生します。

の一つにもなるのではないのでしょうか。また、安全・安心な子育て環境として、子どもたちの遊べる施設が少ないと思います。子育て支援都市になっている南陽市としては、矛盾していると思いません。公園などでも自由に遊ばせることはでき

ますが、雨の日でも遊べる場所が欲しいです。特別に新しく建てなくても、使われなくなつた施設などを利用したりできないでしょうか。子どもの笑顔があふれるまちづくり、住んでよかつたと思う環境づくりを議会としても考えてもらいたいと思います。安全・安心な環境と、この素晴らしい自然を壊すことのない南陽市をめざして！

議会報研修会

手に取って読みたいなる議会だより

講師 (株)メディアブレーション代表取締役

吉村 清氏

11月8日、酒田にて市議会議長会主催の議会報研修会が開催さ

れました。

講師は、日本広報協会広報アドバイザーで全国広報コンクール広報紙部門&写真部門の審査委員です。

企画・編集をテーマに実際の議会報を研修材料に、具体的に問題点や改善内容を示しながらの研修でした。

10月16日の南陽市議会だよりは次の指摘を受けました。

◆表紙の色づかいは中

間色を

◆定例会のあらまは、長くて読む気がしない

◆見開きの左右のページがアンバランス

◆「〇〇について」の表現は使わない など

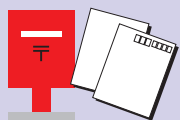
プロの眼からの鋭く、わかり易い指摘に大きな刺激を受けました。

委員一同、研修を活かし、よりわかり易く、読んでもらえる紙面づくりに取り組みます。

ご理解ください

南陽市議会議員一同は、政治倫理の確立を期するため、年賀状などの時候の挨拶状(答礼のため自筆によるものを除く)、諸行事、会合での一切の寄付などは行っていません。市民のみなさんご理解とご

協力を
お願
いたし
ます。



公職選挙法の規定を守り、虚礼廃止を申し合わせています。

今年巳年、白い蛇の夢を見ましたか?お金がどんどん回って景気が良くなり、我が懐にもがっぼり入る。夢でなく現実になつてほしいものですね。

市民と市政を結び議会活動と議会だより。

「手にとつて読みたいなる議会だより」を作成したい」編集委員の共通の思いです。

編集委員長 片平志朗
副委員長 山口正雄
委員 白岩孝夫
高橋一郎
船山利美
吉田美枝

この議会だよりは環境を考え、再生紙を使用しています。